

<概要>

- カストロ大統領は、コロンビアを訪問し、7日のペトロ同国新大統領就任式に出席した。コロンビア滞在中、ペトロ新大統領の他、フェルナンデス亜大統領とも会談を行った。
- 米国との関係では、マリサ・ラーゴ米商務次官（国際貿易担当）が18日から19日にかけて当国を訪問し、経済開発大臣等の関係閣僚との会談、民間企業関係者との意見交換を行った。また、本年の新政権発足後、空席の状態が続いていた駐米大使ポストに関し、1日、ソト現臨時代理大使が新大使として指名された。その他、在イスラエル・ホンジュラス大使館について、当国政府（エルナンデス前政権）は2021年6月にエルサレムに移転したところであったが、8日、ガルシア外務次官（領事・移民担当）は、これをテル・アビブに再移転する旨明らかにした。
- 他方で、12日、OASでのニカラグア政府非難決議（NGOの強制的閉鎖措置、宗教や反政府団体への弾圧など）において、当国は、内政不干渉を理由としてこれを棄権した。
- 首脳レベルの外交としては、サンチェス・スペイン首相が25日から26日にかけて当国を訪問。カストロ大統領との会談等が大きく報じられた。
- 我が国との関係では、堀井巖参議院議員が17日から18日にかけて当地を訪問。レドンド国会議長、ナスララ副大統領、レイナ外務大臣等と会談を行い、二国間関係の更なる緊密化に向け意見交換を行うなどした。

<本文>

1 内政・外交・経済

(1) カストロ大統領によるコロンビア訪問

カストロ大統領は、レイナ外相及びセラヤ大統領私設秘書官を伴い、コロンビアを訪問し、7日に行われたペトロ新大統領就任式に出席した。カストロ大統領は、ペトロ新大統領との会談の中で、麻薬密輸組織との闘いに係る協力関係等につき話し合った。滞在中（6日）、カストロ大統領はフェルナンデス亜大統領とも会談を行い、世界における中南米地域のプレゼンス強化のためラテンアメリカ・カリブ諸国共同体（CELAC）の機能強化について意見交換を行った。

(2) ラーゴ米商務省次官の当地訪問

18日から19日にかけてマリサ・ラーゴ米商務次官（国際貿易担当）が当地を訪問。バルケロ経済開発大臣、テハダエネルギー大臣、民間企業会（COHEP）のジブリン代表らとの会談日程をこなした。滞在中、同次官は記者団に対して、今回の来訪目的は米国とホンジュラスとの間の強い貿易関係の再確認であるとし、雇用創出のため民間部門の重要性を強調した。

(3) 次期駐米大使の指名

1日、レイナ外相は、当国政府としてハビエル・ブ・ソト臨時代理大使を次期駐米大使に指名したところで、米国側の承認待ちであることを明らかにした。また、在米の各領事館における空

席ポストにつき今後順次任命し、体制を強化する旨述べた。

(4) 在イスラエル・ホンジュラス大使館再移転の検討

8日、ガルシア外務国際協力次官（移民・領事担当）はメディアに対して、2021年6月にエルサレムに移転した在イスラエル・ホンジュラス大使館を再びテル・アビブに戻すことを政府として検討中であり、近く正式に発表する予定であることを明らかにした。同次官は、再移転の理由として、カストロ政権はアラブ世界とイスラエルとの間でいずれか一方の側につくということだけでなく、バランスの取れた関係を維持する方針である旨説明した。

(5) スペイン首相の当国訪問

25日から26日にかけてスペインのペドロ・サンチェス首相が当国を訪問。スペインの首相としては、1999年のアスナール首相以来の訪問となった。26日、大統領宮殿にてカストロ大統領との首脳会談が行われた（レイナ外相他同席）。同会談ではスペイン援助庁による各種支援、パンデミック以降の両国の経済及び貿易回復に関する事項などが話し合われ、両首脳は、移民への対処には教育と雇用創出に向けた取組みが不可欠である旨を確認した他、両国間で昨年署名済みの移民管理のための取決めをしかるべく運用していくことで一致した。また、カストロ大統領は、会談後の会見で、両国が公正で包括的な経済の回復に努めることや保健分野支援についての覚書に署名したことを発表した。

(6) OASでのニカラグア政府非難決議におけるホンジュラスの棄権

12日、ホンジュラス政府は、OAS常設理事会特別会合における対ニカラグア非難決議（NGOの強制的閉鎖措置、宗教や反政府団体への弾圧など）を棄権。同決議は、アンティグア・バーブーダ、カナダ、コスタリカ、チリ、ドミニカ（共）、米国、ペルー、ウルグアイの8カ国によって共同提案され採択されたものであるが（賛成27か国、棄権4か国、欠席2か国）、後日（17日）、レイナ外相は記者団に対して、棄権の理由として、ニカラグアは当国の友好国であるとしつつ、「カストロ大統領の立場は明確である。ホンジュラスは他国の内政への不干渉原則を堅持する国である」と述べた。

(7) ホンジュラスのラテンアメリカ開発銀行（CAF）加盟

22日、ラテンアメリカ開発銀行（CAF）は、同行ウェブサイトを通じて、オンライン形式での臨時総会において当国とチリの正式加盟が承認された旨発表。グラナドスCAF総裁は「CAFの取組みが地域の隅々まで行き届くよう、その拡大が進展している。本日、ホンジュラスとチリの国民にとって、我々の資金・技術支援などへのアクセスが可能となるという良いニュースがあった。我々は、両国の開発計画との連携が可能な、社会経済の活性化などに焦点をおき、また革新的なアジェンダに焦点をあてて取組みを進めている」と述べた。

(8) 堀井巖参議院議員の当国訪問

17日から18日にかけて堀井巖参議院議員が当国を訪問。同議員は滞在中、レドンド国会議

長、ナスララ副大統領、レイナ外相等と会談を行った他、我が国ODAサイトの視察、当地で活躍する在留邦人との意見交換等を行った。

22日付け政府広報紙 Poder Popular（民衆の力）は、同議員の訪問につき報じ、レイナ外相は、記者団に対して「今回の訪問はホンジュラス・日本の二国間そして国際社会で有する諸課題への取組みを強化するものである。今次会談では農業、テクノロジー、インフラ等の分野に関する協力について意見交換を行った。日本は、当地に駐在する中原大使がインフラの専門家である等、当国の各種課題への取組みに常に関心を持ってきている」と述べた。

## 2 開発協力

### (1) 我が国による支援

24日、日本政府の支援を通じて、首都圏のフエルサス・ウニダス地区及びカンポ・シエロ地区において整備された二つの防災インフラの引渡式が実施された。式典においてアルダナ・テグシガルパ市長は、首都圏には災害に対して脆弱な地域が約800カ所存在していることに触れつつ、これらの防災インフラは人々の命を守るための投資である旨述べた。

### (2) 米国による支援

8日、当地USAIDは、当国乾燥回廊（Corredor Seco）に面しているチョルテカ県アパシラグア市において、住民の生計向上に向け、150世帯を対象に、有機肥料作成、害虫管理、自家配合飼料作成等に関する研修を実施した。また、当地世界食糧計画（WFP）と連携し、対象世帯に2,200レンピラ相当の食料クーポンが配布された。

### (3) その他

#### ア 中米経済統合銀行（BCIE）を通じた台湾の電力分野における支援

12日、マルティネス BCIE ホンジュラス代表は、BCIE 関係者台湾訪問の結果報告に関する記者会見において、台湾政府とBCIEとの間で、エル・カホンダム水力発電所における第5番目となるタービンの新規整備について協議を行っている旨発表した。また、タービン整備に加え、ホンジュラスにおける新たな太陽光発電所の整備の可能性についても協議を進めている旨述べた。

#### イ 台湾・スペイン等の支援による新規病院建設

29日、マテウ保健大臣は、当地主要紙エル・エラルド紙の取材に答える形で、台湾及びスペイン等のドナーの支援による7つの新規病院建設計画を発表した。新たに建設される病院は以下の通り。

ア テグシガルパ外傷病院（台湾政府支援、4,500万米ドル（借款））

イ サンペドロスーラ外傷病院（スペイン支援、4,500万米ドル（借款））

ウ サンタバルバラ病院（世銀及びイスラエル支援、3,500万米ドル（借款））

エ オコテペケ病院（スペイン支援、1,250万米ドル（借款））

オ オランチョ県サラマ市病院（スペイン支援、1,000万米ドル（借款））

カ シグアテペケ・ポリクリニック（IDB、400万米ドル（借款））

キ ロアタン病院（IDB、700 万米ドル（借款））

### 3 新型コロナウイルス及びサル痘

#### （1）当国における 8 月の新型コロナ感染状況（8 月 31 日現在）

- ア 平均新規感染者数：407 人/日
- イ 累計感染者数：454,553 人
- ウ 平均新規死亡者数：1 人/日
- エ 累計死亡者数：10,979 人

新規感染者数/日は、7 月が平均 478 人であったのに対して 8 月には平均 407 人にまで減少した。しかし政府は、マスク着用、アルコール消毒、社会的距離の維持などの基本的衛生対策に加え、ワクチン接種を国民に呼びかけている。

#### （2）ワクチン接種ほか

ア 新型コロナ・ワクチン接種状況：最新の発表となる 19 日付の保健省プレスリリースによれば、新型コロナウイルスワクチン接種状況は、接種対象者比で、一回以上接種者は 83%（5 歳以上）、二回以上接種者は 72%（5 歳以上）と、先月よりも 1%ほどしか増えていない。三回以上接種者は、接種対象者がこれまでの 12 歳以上から 5 歳以上に広がったため、先月の 61%から 60%に減少した。また、四回目接種者も先月の 26%から 21%に減少しているが、接種対象者は 40 歳以上や医療従事者のままのはずであり、減少した理由は不詳である。

イ 12 日に 1 例目のサル痘患者が確認され、31 日までに累計 4 例が確認されている。いずれもテグシガルパ市在住の男性で、状態は安定しており、自宅にて経過を観察された。なお、4 人のあいだに、接点はない。保健省のプレスリリースによれば、PCR は 2,250 回分の試薬を有しており、PAHO には 5,600 本のワクチン（Jynneos）、抗ウイルス薬の Tecovirimat を申し入れてある。なお、サル痘流行による特別な水際対策は取られていない。

#### <主要経済指標>

◇主要経済指標	2022 年			2021 年
	7 月	6 月	5 月	
インフレ率（前年同期比）	10.86	10.22	9.09	5.32%
貿易収支（百万ドル）	—	—	—	▲4,824
輸出（百万ドル）	—	—	—	10,215.9
輸入（百万ドル）	—	—	—	15,039.9
外貨準備高（百万ドル）	8377.7	8352.5	8460.0	8,677.6
外国からの送金（百万ドル）	—	—	—	7,184.4
為替レート（対ドル月平均）	24.60	24.56	24.55	24.41

（出典：ホンジュラス中央銀行） ※貿易収支、輸出入、外国送金は、四半期毎に発表

（了）